



地域におけるソーラーシェアリングの導入

千葉エコ・エネルギー株式会社

代表取締役 馬上丈司



営農型太陽光発電 – ソーラーシェアリング

代表プロフィール



千葉エコ・エネルギー(株) 代表取締役

馬上 丈司 Takeshi Magami

略歴

- 千葉大学法経学部総合政策学科卒業
- 千葉大学人文社会科学研究所公共研究専攻
博士後期課程修了 博士（公共学）
- 千葉大学法経学部 特任講師（2012-2013）
- 八千代市環境審議会 委員（2013-）
- 地域エネルギー研究機構 代表理事（2014-）
- 千葉市地球温暖化対策専門委員会 委員（2017-）
- エコトラスト(同) 代表取締役（2017-）
- (株)つなぐファーム 代表取締役（2018-）
- 千葉大学人文公共学府 非常勤講師（2018-）
- ソーラーシェアリング推進連盟 代表理事（2018-）

企業概要

会社名	千葉エコ・エネルギー株式会社 Chiba Ecological Energy Inc.		
本社住所	〒263-0022 千葉県千葉市稲毛区弥生町2-15 西千葉浪花ビル3F		
設立	2012年10月1日		
役員	代表取締役：馬上丈司 専務取締役：蘆原領 取締役CAO：岡田篤	執行役員：富岡弘典 顧問：松下操 特別研究員：広井良典（京都大学教授）	
資本金	10百万円		
従業員	10名		
事業内容	<ul style="list-style-type: none">■ 太陽光発電事業 第三者事業性評価、事業開発、O&Mなど■ ソーラーシェアリング 事業開発、営農計画の策定、一時転用許可の申請支援など■ 小水力発電開発 事業化候補地点の選定、初期事業性調査など■ 研究・調査事業 大学機関との連携による地域活性化に関する調査など		
関連会社	株式会社つなぐファーム		

営農型太陽光発電への取組背景

- 代表の馬上が「**永続地帯**」（千葉大学倉阪研究室）の研究に10年以上携わり、国内全市町村の**再生可能エネルギーと食料自給の現状**を把握
- その中で、**再生可能エネルギーのポテンシャルは農村ほど高い**ことが明らかに
- 農地において再生可能エネルギー発電と食料生産を両立させる営農型太陽光発電に、**2013年から注目**
- 匝瑳市飯塚地区のプロジェクトに2015年から関わり実績を積む
- **2018年には自社で農業に参入**し、自社保有・自社営農の営農型太陽光発電設備を千葉市にて運用している
- 営農型太陽光発電に関する**講演活動は累計100回以上**
- **全国40都道府県で150件以上**の営農型太陽光発電の事業化を支援

なぜ営農型太陽光発電か？

従来

- ✓ 農地の多面的利用による**農業者の所得向上**
- ✓ 耕地及び耕作放棄地を活用した**太陽光発電の導入拡大**
- ✓ 荒廃農地の再生による**耕地面積の拡大**



将来

- **農業分野における低炭素化を進める契機**
- **エネルギー生産地としての農村の再評価**
- **地域共生型の再生可能エネルギーモデルの拡大**

千葉県大木戸アグリ・エネルギー1号機



設備概要

所在地 千葉県緑区大木戸町

所有者 千葉エコ・エネルギー

発電出力 625kW

発電量 約920,000kWh/年

完工 2018年3月27日

遮光率 約48%

耕作面積 約10,000m²

作物 にんにく

営農者 千葉エコ・エネルギー株式会社

- 特徴
- 特注架台使用
 - 自社保有4箇所目にして初の高圧設備
 - 新規農業参入

アグリ・エナジープロジェクト

農業を化石燃料から解放する

農業IoT技術などと組み合わせた、
自然エネルギーの利用による**持続可能な農業**の実現を目指す。

- 農業法人を設立し、農業に新規参入。
現在は30代のメンバーを中心に
日々奮闘中。
- 農作物とエネルギーを生産する
新しい形の農場モデルを形成。
- 脱FIT時代に向けた次世代農業の提案

